

北広島市長期総合計画審議会 第2回 環境・福祉部会 議事録

■日 時 平成 21 年 8 月 26 日(水) 19:30~20:40

■会 場 芸術文化ホール活動室 4

■出席委員

長井敏行部会長、内手進委員、大川壽雄委員、大谷恵一委員

三瓶徹委員、根岸敏子委員、榎武弘委員、森永正造委員

■欠席委員

川島光行委員、斎藤冽委員

■事務局

前野康弘総合計画課主査

■傍聴 なし

開 会

1 部会長あいさつ

【部会長】環境・福祉部会としては、「自然と創造の調和した豊かな都市」が全体会議でも話題になったが、これについてはあとで意見をもらうことにして、まずは基本目標の6つの中でこの部会として取り上げるべきものを確認したいと思う。

2 専門部会の役割について

【事務局】ざっくばらんに色々な意見をもらい、かたくならずに意見交換をしてもらうことが積み上げになる。会長も述べていたが、各部会でまとまったものを全体会議にフィードバックするので、論議は非常に重要になる。

環境・福祉部会については基本目標のうち、「環境と共生する安全なまち」と「支え合い健やかに暮らせるまち」を所管することになる。基本構想、基本計画の体系と部会で環境、安全、健康、福祉の分野を論議していただくことを理解願いたい。

3 部会審議

【部会長】これまでの10年間で環境保全の政策と施策、それがどの程度達成されているかが読んでいてもわかりづらい。具体的な目標値に対してどのような達成度があったのかがわからず、実感がわかないと皆さんは思っているのではないかと。

市民の努力の結果こうなったとか、行政の努力の結果こうなったとか、業界の努力の結果こうなったとか、過程を示さなければよくわからないのではないかと私は思う。その点をはっきりしなければいけないのではないかと。

【事務局】概要は計画を作った10年前の時点。業務実績報告書の89ページから総合計画の点検として各分野の今までの取り組みや課題が示されている。

今日は個別に入るといよりも、まず全体的な安全や福祉などについてのイメージ付けをしてもらい、今後進めるなかで点検の結果や課題を含めた個別の検討に進んでいただきたい。次回は、もう少し基本計画の具体的な部分を示すことができると思うので、具体的なものについてはその時にお願いしたい。

今後の日程等は、9月4日と24か25日に専門部会を行い、部会でまとめた意見を10月6日の全体会議に報告していただく予定。

【部会長】 基本的には「環境と共生する安全なまち」、「支えあい健やかに暮らせるまち」、これをキャッチフレーズとして一言でわかるような言葉が必要ではないか。その点も含め、意見をもらいたい。

別のキャッチフレーズで環境・福祉問題について、端的に表現できるようなまちづくりの一つの柱のようなものを立てると良いと思う。また、一つ一つの基本目標の上にキャッチフレーズを立て、その下に「環境と共生する安全なまち」、「健康で健やかに暮らせるまち」が来るような意見ももらいたいと思う。これらのフレーズについては、変更も可能。

政策としては、環境・安全で8項目、健康・福祉で6項目あるが、これらをくくるようなキャッチフレーズをお聞きしたい。

【委員】 全体会議の話の中にも少し出たが、北広島市は、それぞれが分散都市となっている。これらをつなぐコミュニティバスさえ運行していない状態である。それぞれの地域にはそれぞれの文化があり、心を熟知して入っていかなければ、北広島市で考えたことを全部しようとしてもなかなか受け入れられない面がある。

準工業都市化している場所は活気が出てくる。西の里やその他では、別の面での活気もあると思う。地域の性格を熟知してかからなければ何をしてもうまくいかないのではないかという感じがする。

私も自治連合会の中で、それぞれの地域の特性を踏まえ、どこか違うアクションを付けなければ成功しないと思う。

【委員】 体系図を見ると行政的な体系である。行政の仕事に合わせた北広島市の在り方だとどうしてもそうになってしまう。今言われたように、私は基本目標の上に地域をどう捉えるかが必要だと思う。いきなりこの体系図へ入ると、行政の仕組みの中で考えてしまう。北広島の事情に応じた計画の在り方ではなく、このようなものに当てはめられて考えなければならなくなる窮屈さを感じる。

高齢化は、全体では20%だが団地自体は30%となっている。しかし、その自覚がはたしてあるのか。それをどう捉え、政策の中に盛り込んでいくか。市の考え方は「全てのことを考えなければならない」ということがあるので、結局は何もしない、全部しないと同じである。大曲は10%くらいの高齢化に対応するケース、そこにかける北広島市の考え方と、団地にかける対策は同じであるはずがない。

地域とは生き物である。当然元気なところも病んでいるところもあるわけだが、相対として住んでいる人々や構成されている人々の中で、何を政策と考えれば良いかを考えることが調和ではないか。

現在の都市像では、ただ単に自然と創造の調和としか考えられないが、そうではない。自然というものは植物等だけでなく、人間が生きることも含め自然ではない

か。ここになにをどうするかを考えることも創造であり、地域で生きていくという調和なのである。自然と創造の調和した豊かな都市というものは、前の時代の考え方と今の時代では全く違うと思う。行政の下請けになってしまうのではなく、地域の事情があるので、そこを考えた施策をしっかりとっていくことに、創造性が問われているのではないかと思う。

もう一つは、ここ 10 年間の、激動の時代のまっただ中に今もいるわけである。政権問題、金融恐慌、様々なことが失敗したと言い始めているわけである。市場原理で、したいことをする時代は終わったということを言っている。であれば、北広島市として揺るがない考えを持つことが大事である。政策の中で 5 年経てば見直すところがあるが、人間が生きる中でこれだけは揺るがせないという部分、北広島市に住む人々のここだけは揺るがない、守っていかねばいけないというものを、哲学を持ってそこにシフトしたものの考え方を今こそ持つべきだと思う。

これだけいい加減に世の中に振り回され、以前は中流層が多いと言われ、今はワーキングプアと言われ、生活保護を受ける人が増えているというとても大変な自体が起きている。そのような人々がどれだけ増えているのか、北広島市にはどれくらいいるのか、本当に生きていくだけで精一杯な人々がどれだけいるのか、その人達を放って置いていいのか、という問題がある。

高齢化により働けず、年金で生活しなければならない人々が増えていく可能性がある。その時、命と生活を守るという北広島市の核、理念となる志が欲しい。市場原理、世の中の経済体制の中で、人が生きていく上でこれは揺るがせない、聖域だということがあってもいいのではと思う。

教育や福祉は、人間が生きるための英知と生きることで生まれる智慧を大切にしなければほころぶだけだと思う。それをどこかに入れるべきだと思う。北広島市の確固たる考え、大事なところを作るべきだと思う。それも、市民にわかりやすいものを。

【部会長】 時間が経っても地域に偏らず譲れない核がある。部会でも重点プランとして、環境福祉で絶対に譲れない核を作るべきである。同時に、将来都市像の自然と創造は昭和 45 年とは解釈の仕方が違ってきているのではないかと思う。

一々説明しながらキャッチフレーズを言うわけにもいかないのもっとわかりやすく、このような都市を目指すべきというものがあれば十分成り立つだろうと思う。今の発言に対して何かあれば。

【委員】 北広島市のそれぞれの地区が発展していけば、全体の発展につながる。同じレベルで発展していこうとすると、どうしても行政と同じように見える。危惧する点はそこにある。

大曲を訪れた人は活気があるまちだというが、団地に行くと活気がないという。そのような形になってゆくのではないか。

【委員】 団地で言えば、確かに活気はない。しかし、仕事を終え、知識、智慧を持った人々はたくさんいる。その技術、知識、智慧をどうやって活かしていけるか、もしできればすごいことになると思う。それだけのものを持っていながら何もしないで朽ちていくということが、どれだけもったいないことか。少なくとも 10 年間は

その方々と楽しい地域づくりをすることは不可能ではない。

地域づくりは教育が重要で、人が育つ環境づくり。お金をかけずに育てる方法はたくさんある。それはつながり。その機会づくりの方法がわかれば、育つ環境づくりができる。学校も一体になり、そのような技術を持っている方が子どもたちに伝える教育方法を考えていくことができれば、他の地域にはない一つの育て方となる。

人をどう育てるか。子どもが少なければ少ないほど、子どもたちに対して濃厚な教育システムで教育を施すことができる。何に絞るかと言えば、私は教育を選ぶ。

もうすぐ学校が廃校になる。あの学校を活かすことで相当のことができるはずであり、退職された人も廃校になる学校ももったいない。金をかけずに余生を送ろうとしている方の知恵を借りないのはもったいない。うまく引き出すべきだと思う。

【部会長】 全くその通りだと思う。外見上は活気がないように見えるが、パワーを引き出すような政策も必要ではないだろうか。政策の中に取り入れ、各地域に行政が予算を付ければ地域で活用できるのではないかと思う。

【事務局】 市民は平等に税金を収め、同水準のサービスを受けると考えると、地区間の公平も考えなければならぬが、これからはそういう時代ではなくなるのかもしれない。地域の特色として見れば、考え方も変わってくると思う。

【委員】 今までは、協働という言葉だけで先走りしていた。最近になって、その言葉が各地域に浸透し、非常にまとまり始めている。

【事務局】 人材の確保は課題。そのような方々がたくさんいることから、活用方法や仕組みも検討いただき、引き出してもらえれば、今後、新たなテーマとなる。

【委員】 今、市長が各地域に年間 100 万円をまちづくり資金として出しているが、実際の使い道について一部の地域の協働に関わっている人しか感心が無い。

わずか 100 万円、されど 100 万円、それぞれの地域ごとの使い方を考えていかなければならない。資金の大半を残した地域もたくさんあり、見直す必要はあると思う。

【部会長】 地域に合わせたキャッチフレーズが必要である。そして、それに合わせた施策、具体的な推進計画など住民の賛同が得られることが必要である。

環境・福祉の部会で重点プランを作成しなければいけない。子育て支援の問題や、福祉、それらをくくる事ができるキャッチフレーズが必要である。

【委員】 アンケートは取れますか、それぞれの地域で。予算等はどうでしょう。地域ごとにアンケートを求めれば、何を欲するのか、比較的早く正確な結果が出せる。

【事務局】 この計画を作る前提として、地域ごとも含めた、市民アンケートを昨年実施した。今回の資料にも結果は出ており、地域の特色も入っている。

【部会長】地域性が出るようなアンケートの整理の仕方で結果を出してもらえたらありがたい。

【委員】ここでは本当に基本的なものを作るのであって、各地域の要望など細かいことはいらないのではないか。

北広島市の特色はこれだ、この10年間の長期計画はこれだと、それにぴたりと合っている地区に力が入ってしまったことは、仕方がないのではないか。

【委員】共通の部分が出てくると思う。例えば、虹ヶ丘という地域では高齢者率3%と低く、逆に団地はもっと高い。だが、同じものを求めてどうなるのか。

【部会長】会長が言った着実に成長していくもの、環境を大切になどを確認しながら自然と創造の調和した豊かな都市という概念で、北広島市をひとくくりにするという議論をしっかりしておかなければ、核に入っていけないのではないか。

我々は何を大切にしていけばいいのか。当時は産業が自然を破壊するという考えだった。その時の考え方でできたものである。生きること、人を大切にすることということが強調されているような感じがする。

「自然と創造の調和」に変わるような、北広島市が何を指すのかというはつきりとしたものを議論し、そこから枝葉が出てくるのではないか。これを踏襲していくことは、少し無理がある。我々が考える将来都市像とは違うと思う。

【委員】「自然と創造の調和した豊かな都市」という表現があるが、この文言を読んで何を言って何を指すのかわからないと思う。

今流行りの視覚で訴える、見て、聞いてわからせることが、より協働参加の道につながり、お年寄りを大切にしようというコミュニティも、良い子育て環境についても出てくるでしょう。底辺の広い意味で私は考えます。

一部地域での問題でも北広島市全体で考えれば、レベルアップや救済をしなければいけない。我々の部会は環境と福祉だが、具体的に、将来構想の持ち方、できれば政策の件名くらいは表してもらいたい。

【事務局】今後としては、地区説明会などでも示していかなければいけない。

【委員】誤解されているかはわからないが、5つの地区に特色があるということを行っているだけである。特色に応じた対応の仕方、つまり価値観は同じである。

団地が高齢化しているからここに力を入れ、大曲は軽く見ると言った価値観ではない。地域の人口構成で同じ価値を置いて施策を実施しなければならないが、取り組み方は違うべきであると言いたい。

今までの行政の、ここにこれを作れば他に同じ物を作らなければいけないという発想がおかしいということを行っている。

【委員】私は村の時から住んでいる。西の里にしても、大曲にしても、同じまちではあるが違うまちのような気がする。それが皆さんの中にもあると思う。

私は大曲に合わせた構想は反対ではない。賛成は得られる。基本は皆さんが同じ

で、大曲の方が団地の今の事情を知っていれば反対するということは私には考えられない。市を良くしようとしていることが見えていれば賛成は得られると思う。その表現方法は思いつかないが、私はそのように思う。

【部会長】 基本的な考え方は先ほどの意見のように、価値としては同じ価値を持っているが、施策の実施に関しては、重点の置き方、予算の付け方、具体的な取り組みの優先順位を認めてもらえるのかということである。

全てをひとくくりにするキャッチフレーズが欲しいところである。将来都市像も地域に関わらず「自然と創造の調和した豊かな都市」になったわけであるが違和感があるのではないか。

【委員】 将来都市像の間に4つくらいキャッチコピーがあればいいのではないか。

北広島市の将来都市像の下に具体化したものがあり、更にそれを具体化していく。説明するときいきなり仕事の中に入っていってしまう気がする。

企業もそうだが、やはり理念はあるわけだから、その理念こそが北広島市の将来都市像である。理念があり、そして具体的にどうするか。

今あるものを前提として考えてと会長は言っていない。組み合わせを変えるなどの思い切った考えがあってもいいのではないか。

【委員】 地域別の考えは、それぞれの文化があるので別々となる。北広島市のどこにでも福祉があればということを求められている。

【部会長】 将来都市像と基本目標の間に、何か3つほどの環境・福祉部会をくくるようなキャッチフレーズを次回まで皆さんに考えてきてもらいたい。

将来都市像についても今後の北広島市のためにいいと思うものがあればお願いしたい。

環境・福祉部会をくくるようなキャッチフレーズや別の施策がよいとか、部会が違うなど意見が出てくると思うので、討議して締めくくりたいと思う。

【委員】 将来都市像や政策の移動、環境と福祉のくくりのキャッチコピーを考えると、基本目標の表現についてはこのままなのか。

【部会長】 環境・福祉部会としてのキャッチコピーは基本目標の上になる。基本目標についても案があればお願いしたい。

【委員】 大前提である都市像も変わるかもしれない。その次に来るものも新しくなる。当然、基本目標のキャッチコピーも変わるかもしれない。

【委員】 若い人でも、子どもでもわかるというものを作るべき。我々だけが調べた上でわかるようなものではだめ。そういうものをみんな考えていきたい。あと、具体的なものはどの程度まで掘り起こすのか。

【事務局】 目指すべき方向性など、次回にある程度示して行きたいと考えているので、それから具体的な議論としていただきたい。

また、先ほど役所的という指摘があったが、役所がすべきもの、必ず盛り込まなければならないものもあるということは理解をいただきたい。事業ではなく分野ごとの方向性と、テーマ、キャッチフレーズなど大きな形で捉えるものと2つの部分で検討していただきたい。

【部会長】 確実に成長すること、活気があるまち、子どもや若者に愛されるまち、などに関連させてまとめればいいのかと思う。

【委員】 手法としてカードにどのようなまちがいいかを書いて、それを分類していけば全員の考えを無視せずにまとめることができる。

【委員】ブレインストーミングを採用した方が意外と早い。皆さんの意見が出るから。そういう会議の進め方も一つとしてあると思う。本来は資料もなしで議論する、それを市役所の方がまとめる、練り上げていく、議会にかける、ということの方が実のあるやり方だと思う。資料の活字にだまされる部分もあるので。

【事務局】 白紙の状態から作っていただくとなると時間的な問題もあり、すべてを論議するところまではいかない。計画づくりの手法として、将来的に議論の必要性は出てくると思う。

【委員】「主役は市民」という流れを組んで、どう組み立てていくかが重要だと思う。声をちゃんと聞くべき。この人のキャッチコピーがいいからこれを選ぶではいけない。

【部会長】 次回までに将来都市像、環境・福祉部会をひとくくりにするキャッチフレーズなどを考えてきていただきたい。

4 次回専門部会の日程

次回は9月4日18時から同会場で開催。

次々回は、各委員の協議により24日に開催。

閉 会